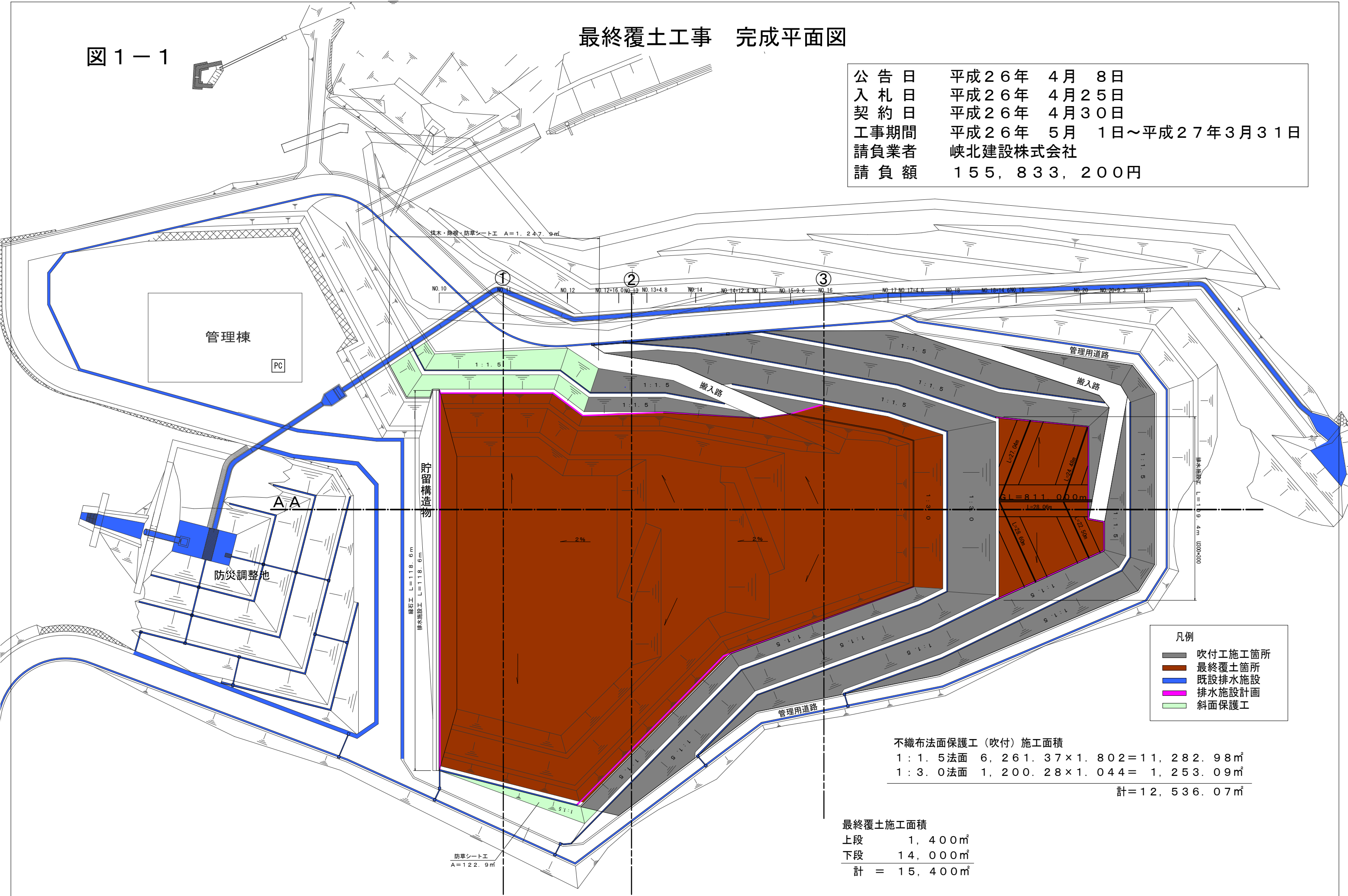


図 1-1

最終覆土工事 完成平面図

公告日	平成26年 4月 8日
入札日	平成26年 4月25日
契約日	平成26年 4月30日
工事期間	平成26年 5月 1日~平成27年3月31日
請負業者	峡北建設株式会社
請負額	155,833,200円



凡例

- 吹付工施工箇所
- 最終覆土箇所
- 既設排水施設
- 排水施設計画
- 斜面保護工

不織布法面保護工(吹付)施工面積
 1:1.5法面 6,261.37×1.802=11,282.98㎡
 1:3.0法面 1,200.28×1.044=1,253.09㎡
 計=12,536.07㎡

最終覆土施工面積
 上段 1,400㎡
 下段 14,000㎡
 計 = 15,400㎡

最終覆土土量 V=26,700m³

図 1 - 2

最終覆土工事 縦断面図

AA断面

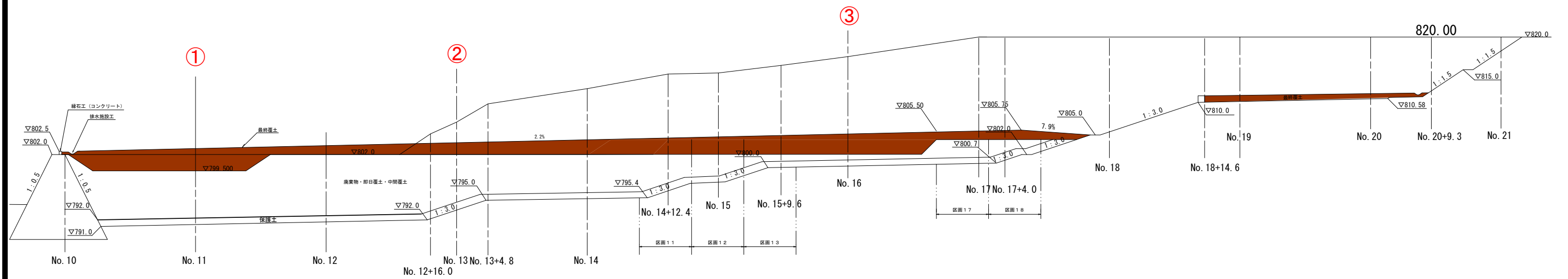
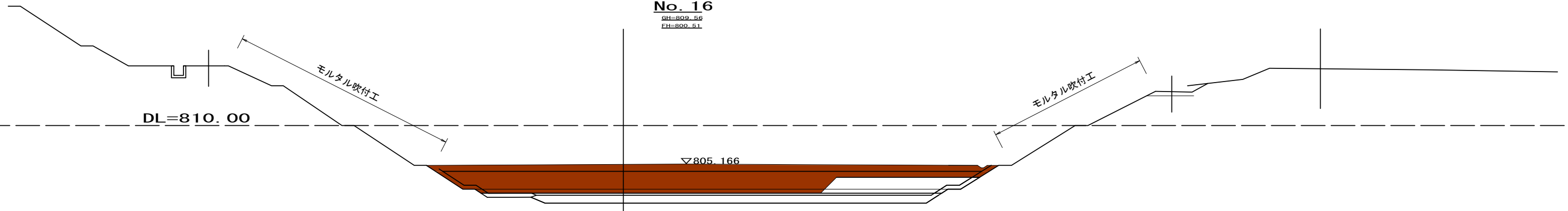


図 1 - 3

最終覆土工事 横断面図

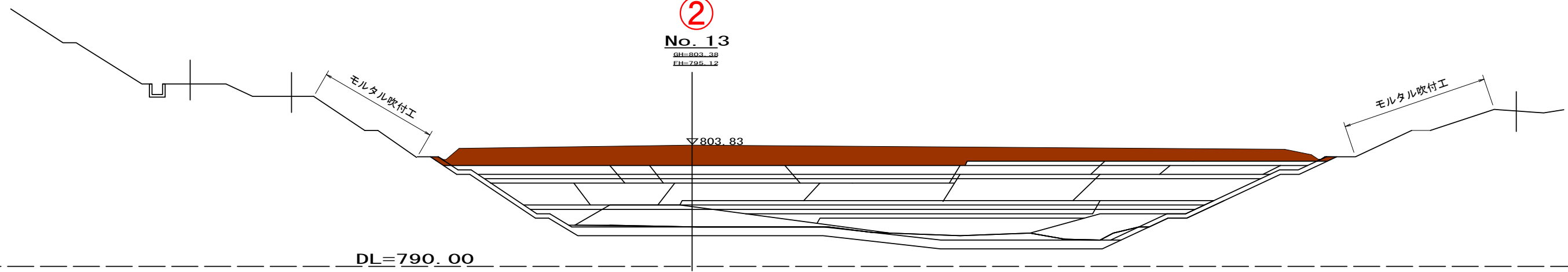
③

No. 16
QH=809.56
FH=800.51



②

No. 13
QH=803.38
FH=795.12



①

No. 11
QH=799.39
FH=785.00

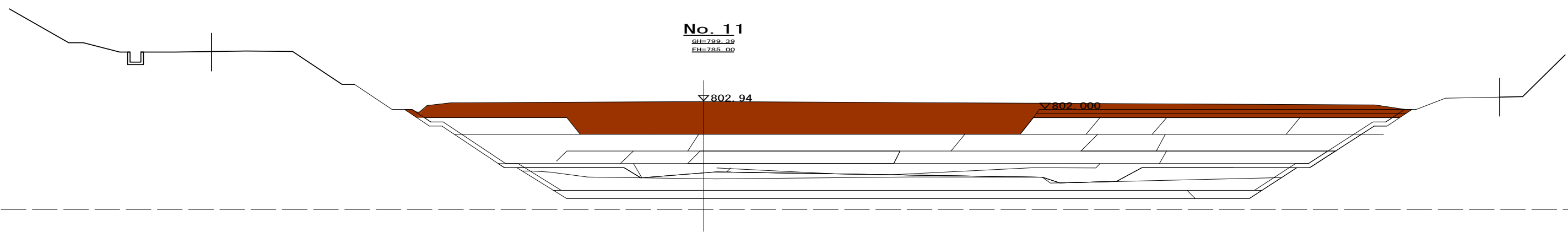
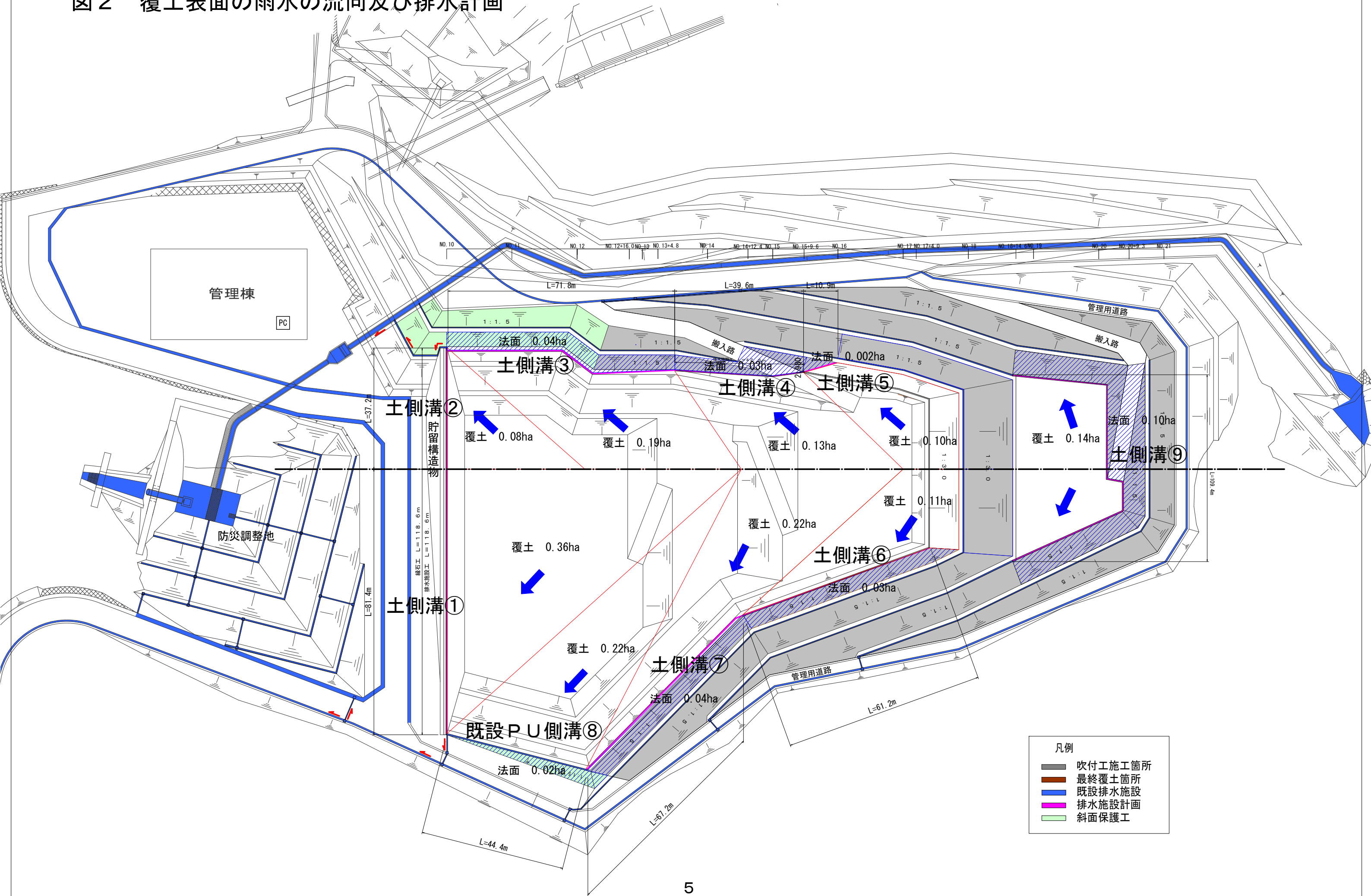


図2 覆土表面の雨水の流向及び排水計画



- 凡例
- 吹付工施工箇所
 - 最終覆土箇所
 - 既設排水施設
 - 排水施設計画
 - 斜面保護工

図3 貯留構造物付近（土留コンクリート壁・土側溝）詳細図

○土留工(コンクリート)の安定計算

工種	形式	擁壁寸法	土質条件
土留工(コンクリート)	重力式(直接基礎)	H=500 W=300	土留工の背面部分の土圧については、土砂を用いて計算を行うものとする。 なお、支持地盤についてはコンクリートであるが、類似条件である砂質土を用いて計算するものとする。

検討結果

滑動安全率	1.95 > 1.5
転倒(偏心量)	0.04 < 0.05

○滑動については、基準で定められている安全率1.5に対し1.95と上回っており、安全性に問題はない。

○転倒についても、基準で定められている0.05に対し0.04と下回っており、安全性に問題はない。

上表より土留工の滑動及び転倒について安定しているが、さらに貯留構造物との一体化を図るために、差筋の設置も行う。

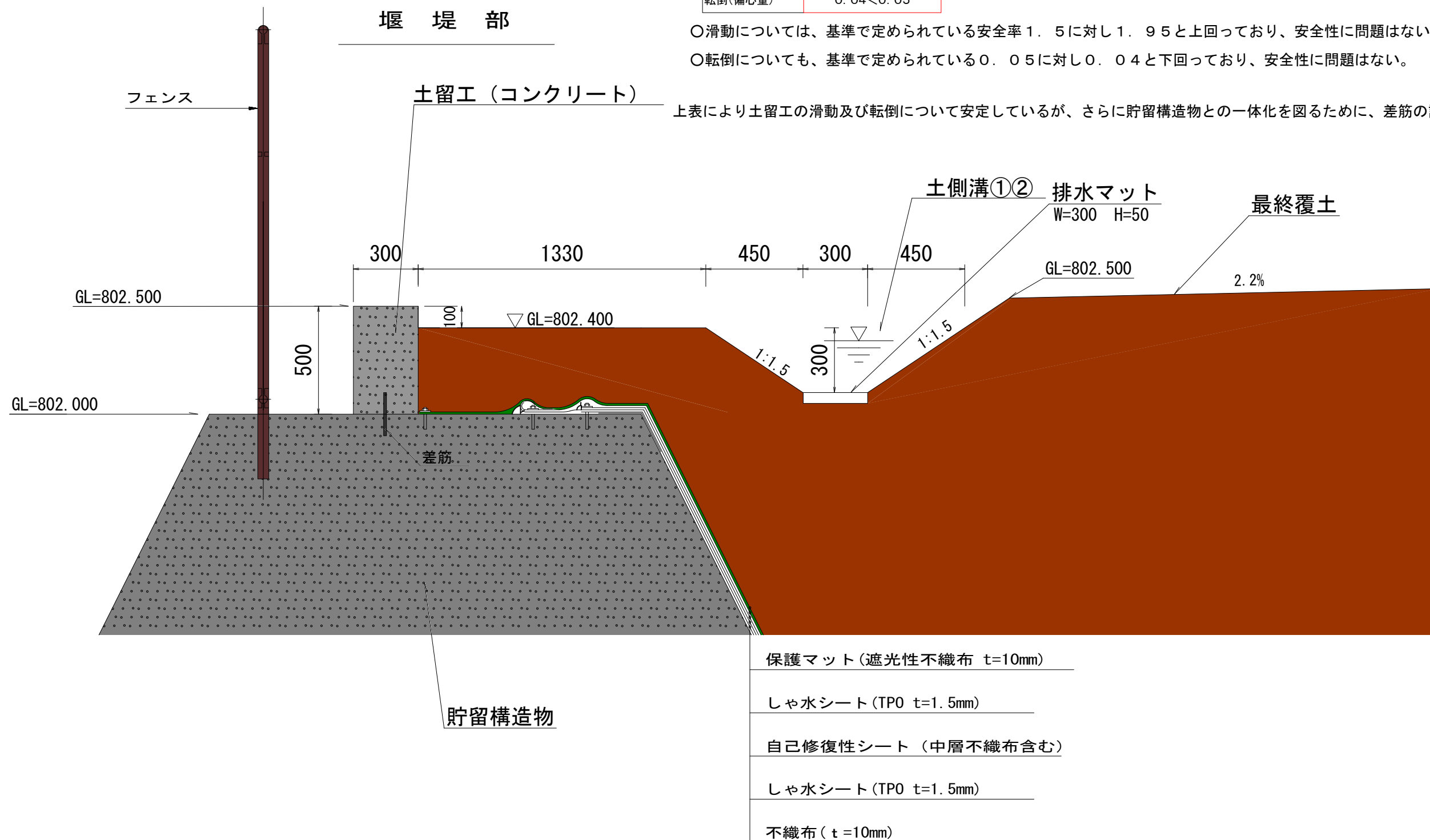
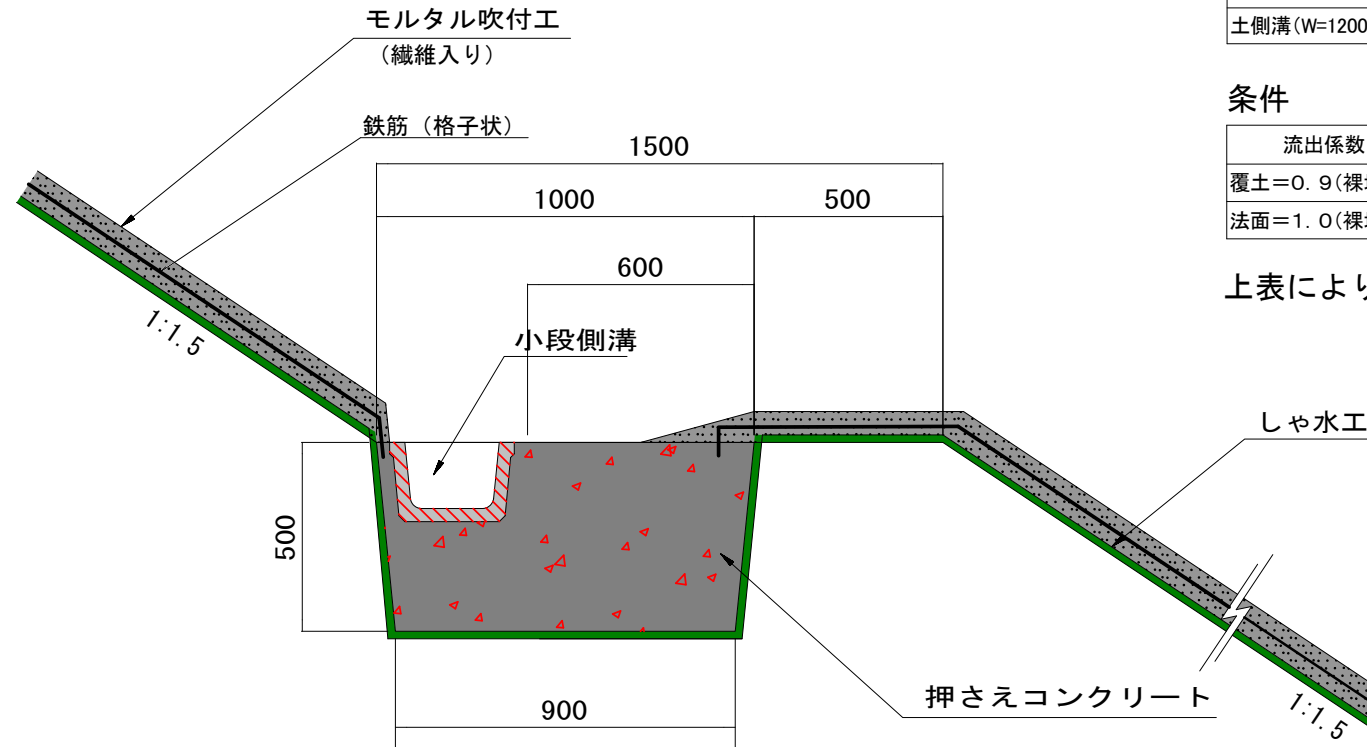


図4 モルタル吹付工と左右岸の側溝詳細図

モルタル吹付工詳細断面図



○ 雨水の流量計算

工種	路線番号	排水面積 (ha)	側溝延長 (m)	有効水深	雨量 (m ³ /s)	計画流出量 (m ³ /s)	流量の余裕率 (%)
土側溝 (W=1200, H=300)	①	0.360	81.3	8割 (W=1020, H=240)	0.100	0.130	30.00
土側溝 (W=1200, H=300)	②	0.080	37.2	8割 (W=1020, H=240)	0.022	0.130	490.91
土側溝 (W=1200, H=300)	③	0.49	122.5	8割 (W=1020, H=240)	0.139	0.155	11.51
土側溝 (W=1200, H=300)	④	0.26	50.62	8割 (W=1020, H=240)	0.074	0.370	400.00
土側溝 (W=1200, H=300)	⑤	0.10	10.9	8割 (W=1020, H=240)	0.029	0.401	1282.76
土側溝 (W=1200, H=300)	⑥	0.14	61.2	8割 (W=1020, H=240)	0.039	0.081	107.69
土側溝 (W=1200, H=300)	⑦	0.40	128.5	8割 (W=1020, H=240)	0.112	0.132	17.86
既設PU側溝 (W=300 H=500)	⑧	0.64	172.9	8割 (W=300 H=400)	0.179	0.202	12.85
土側溝 (W=1200, H=300)	⑨	0.24	109.4	8割 (W=1020, H=240)	0.070	0.171	144.29

条件

流出係数	設計雨量強度	洪水到達時間	
覆土=0.9 (裸地)	1/10年 (葦崎)	流域面積	50ha以下
法面=1.0 (裸地)	110.8mm/h	単位時間	10分

※水路の計画流出量は断面、勾配、有効水深等により算出している。

上表より、土側溝の8割の断面でも十分な流水能力を有する構造となっている。

排水施設工詳細断面図

